

# 2021年度 社会情報学演習 ゼミ概要

## 【情報コミュニケーションコース】

### ■ 辻ゼミ (辻 泉) ■

○テーマ：「ポピュラー文化とメディア」

辻ゼミは、文化とメディアをこよなく愛する精鋭たちの集うゼミです。人一倍、何か好きなものがある、メディアについて関心がある、そういった学生たちが、日常生活で、身近に楽しんでいるもの、接しているものを、あえて振り返って研究対象にして掘り下げていく、そんなゼミです。ですから対象は、アイドルでもアニメでもゲームでも、あるいはスマホでもSNSでも、なんでも構いません。

そして、ポピュラー文化とはとても楽しいものです。ですが、それを楽しんで終わらせてしまうのではなく、その背景に存在する若者の自己やコミュニケーションの問題であったり、グローバル化といった社会変化と関連付けて理解することが重要でしょう。あるいはメディアという存在も、つい身近にありすぎて、あたかも空気の如く感じてしまいがちですが、その功罪について、深く掘り下げて理解する必要があるでしょう。

このように、我々にとって身近で楽しい文化やメディアについて、それを大真面目な研究対象ととらえられる方々と一緒に、その実態を考えていきたいと思います。関心のある学生諸君をお待ちしています！

○活動予定内容：

卒業研究論文・卒業論文に向けた各自のオリジナル研究報告と、文化社会学やメディア論に関する文献の購読を行います。文献購読は、要約者とコメンテーターを分担し、いくつかの論点についてゼミでディスカッションします。文献の例として、高野・飯田・加島編『現代文化への社会学』（北樹出版）、宮台監修、辻・岡部・伊藤編『オタク的想像力のリミット』（筑摩書房）、宮台・辻・岡井編『男らしさの快樂』（勁草書房）、馬場・池田編『「女子」の時代！』（青弓社）、土橋・南田・辻編『デジタルメディアの社会学』（北樹出版）などが挙げられます。年度末にはゼミ論文集を刊行しており、それ以外にも、夏には合宿やBBQ、季節ごとにもコンパを行って親睦を深めています。また3年生は、毎年恒例の個別進路面談を行っています。

ゼミ生たちの仲がいいのも特徴的で、卒業してからも時々ゼミに先輩たちが遊びに来てくれることがあります。新聞社や出版社といったメディア業界だけでなく、広告、不動産、銀行、流通、あるいは公務員といった様々な職場で活躍中の先輩たちは、いわゆるOBOG訪問の時だけでなく、これからの社会で活躍する学生諸君にとっても心強い存在といえるでしょう。

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは卒業研究論文の分量について、2万字以上を原則とします。また卒業論文に果敢に挑む、ヤル気のある学生も歓迎します。

○その他：

ときどきゼミの様子を、ツイッター (@izumi2z) でもつぶやいています。ハッシュタグ「#中大辻泉ゼミ」でも検索してみてください。ゼミの様子や担当教員については、専攻のホームページの情報もぜひ見てください。

以上

## ■ 石堂ゼミ (石堂 彰彦) ■

### <ゼミ内容>

本ゼミはメディアやコミュニケーションの研究を通して、社会の仕組みを考えていくことを目的としています。

私たちは日常的に、多様なメディアを利用し、コミュニケーションをおこなっています。その背後にはさまざまな仕組みがあり、それらは気づかぬうちに社会のありかたにも影響をおよぼしています。

社会をメディアやコミュニケーションの視角から捉え直すことで、思わぬ発見をすることも少なくありません。独自の視点から社会に切り込み、誰も知らなかったことを明らかにするのは、学問の醍醐味でもあります。

発見には苦勞がつきものですが、皆さんとその経験を共有しつつ、未知の領域を探究していきたいと思っています。

### <活動予定>

前期は、まず四年生が卒業論文・卒業研究論文の経過報告をおこないます。三年生は四年生の発表を聞いて、研究のしかたや、テーマ・問いの立て方などを食欲に学んでください。その後、メディアやコミュニケーションにかんする文献の購読をおこないます。文献購読は、三年生が主体となって進めます。文献を精査するなかで、自分なりの視点を獲得して行ってほしいと思います。三・四年生ともに時間外の個人面談をおこないます。

夏合宿も実施し、三年生はゼミ論、四年生は卒業論文・卒業研究論文に向けた発表をおこないます。

後期は、四年生は卒業論文・卒業研究論文の執筆に専念し、三年生はゼミ論に向けた報告を複数回おこなうなかで内容を具体化していきます。

学年末には、三年生はゼミ論（10,000字以上）、四年生は卒業論文・卒業研究論文の要約を執筆し、ゼミ論集として刊行します。

### <卒業論文・卒業研究論文>

本ゼミは四年次での卒業論文執筆を推奨しています。卒業研究論文を選んだ場合でも、卒業論文と同じ20,000字以上を条件とします。

## ■ 宮野ゼミ (宮野 勝) ■

### 【目標】

○「人間」と「社会」について自分で調べられるようになること、しっかりした論拠をもって書いたり語ったりできるようになることを、目指しています。情報がキーワードになる今日、社会に出てからもあなたの大きな力になることを願っています。

### ○研究のテーマ

データサイエンスとは「あらゆる種類のデータを処理・分析して、そこから有益な情報を（価値）を引き出すこと」（竹村他：2019）だと考えています。

あなたに関心のあるテーマ、そして楽しんで研究できるテーマを選んでください。

### 【進め方】

○3年生の早い段階からゼミの仲間と共同調査（主としてアンケート調査）をし、社会の調べ方を学び、レポートを出してもらいます。

テーマは参加者と相談して決めます。これまでは、SNS・著作権意識・メディアリテラシー・食意識・幸福感・マナー意識・ジェンダー観・広告評価・ゲーム、などを取りあげてきました。

調査を通して色々な考え方に触れると、世界の見え方がガラリと変わります。

○ゼミはみなさんの発表とコメントが中心になります。

自分で調べて考える力と、発表・対話する力の育成を目指しています。

○3年生は個人研究でもゼミ論文を書きます。テーマと方法は自由です。

4年生には卒論執筆を勧めています。卒業研究論文の場合は最低1万字です。

### 【その他】

○（コロナの状況が許せば）夏合宿を行う予定です。原則として全員参加で、仲間意識がぐんと深まります。

○モデリング、データ解析の初級・中級の未履修者には、平行履修を勧めています。

## ■ 安野ゼミ (安野 智子) ■

○テーマ：「社会調査で人間の行動を探る」

このゼミでは、人間の判断や行動を、「データに基づいて」実証的に解き明かしていくことを目標としています。担当教員の専門分野は、世論・世論調査・社会心理学ですが、研究テーマは個人の自由です。過去の卒論のテーマは、友人関係、消費者行動、趣味(音楽、ゲームなど)、スポーツ(スポーツファン、箱根駅伝)、SNS、就活、結婚、食生活など、多岐にわたります。

たとえば、ソーシャルメディアにはまる人とそれほどでもない人はどう違うのでしょうか？それはなぜでしょうか？ソーシャルメディアで孤独感は和らぐのでしょうか？それとも他人と比較して落ち込んでしまうのでしょうか？こうした疑問を、実際に調査を行い、データ分析の結果をもとに考えていきます。テーマによっては、(公開されているデータの)二次分析、簡単な実験、インタビューによる卒論も推奨しています。

調査票を設計し、たくさんの人の意見を聞けるのは楽しいことです。統計分析は、最初は少し大変かもしれませんが、根気強く取り組めば、とても強力な道具にもなります。社会調査や質問紙の設計、統計分析などのスキルを身に着ければ、マーケティングやマスコミ・公共の調査などを始め、社会でもさまざまな場面で活用できます。(ただし慣れるまで、少々忍耐と努力は必要です。)いわゆるアンケート調査をしなくても、購買データや人口統計など、データ分析の対象は幅広いのも魅力です。それ以上に、自分の疑問がデータで解き明かされたときのうれしさは格別です。ぜひ一緒に味わいましょう！

○活動予定：

前期の授業では文献を購読し、ディスカッションを行います。2020年度はホフステードらによる『多文化世界(第3版)』(有斐閣)を読みました。各自の研究は、個別相談を中心に進めます。例年、夏休みにはゼミ合宿を実施し、親睦を深めています。(残念ながら、2020年度は実施できませんでした。)夏休み明けから10月にかけて、学生調査あるいはウェブ調査を実施し、11月～12月はそのデータを分析していきます。ソフトウェアの使い方、分析結果の読み取りなどは随時補習などでサポートしていきます。ただし、「データサイエンス演習」の授業

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは、卒業論文は2万字以上、卒業研究論文は1万字以上の分量を条件とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。年度末には毎年ゼミ論集を刊行しています。(CD版か冊子版かは4月に相談して決めます。)

## ■ 浅岡ゼミ (浅岡 隆裕) ■

本ゼミでは、メディアやコミュニケーションが介在することで生起する現象を社会学、メディア理論ほかの概念装置を援用して、自らの視点によって分析します。その社会的メカニズムを説明することの面白さ・奥深さを経験してもらいます。目標はメディア&文化分析の技法の習得にあります。とくに、分析の道具としての様々な社会調査（インタビュー、アンケート、ドキュメント（メッセージ）分析、観察等）それぞれの特性を踏まえ、いずれかを選択・実施し、実証的な研究をしていきます。

前期に文献・資料を講読する中で研究することのイメージを共有し、後期には全員で相談してゼミ共通テーマを設けて、それぞれのグループの調査研究活動を通じて、テーマについて総合的に解き明かしていきます。

共通テーマは「若者の現在」(2010)、「メディアのチカラ」(2011)、「今どきの若者のメディア&ライフ」(2013)、「大学生の嗜好」(2014)、「ドキュメントを通して見えてくる現代社会」(2015)、「インターネット時代の表現文化」(2016)、「いいね世代の〇〇行動、意識」(2017)、「平成最後の若者たち」(2018)、「令和元年の若者たち」(2019)と展開してきました。20年度は消費とメディア行動の新しいかたちについて、トキ消費、一般人のバズリ、ネット広告、テレビや動画配信サービスといったテーマと具体的な分析対象からアプローチしています。次年度以降、身近なローカルな場所でのメディアとコミュニケーション、消費の関わりなどがテーマとして想定されます。

本学を卒業し、広告会社でのキャリア（クライアント企業のコミュニケーション戦略立案とマーケティングリサーチ業務）を持ち、現在、複数地域での魅力発信プロジェクトに携わっている教員が2年間指導します。ゼミ受講者が執筆・編集した研究成果報告書（＝ゼミ論文集）創刊～13号は、社会情報学研究室（3号館4階）、社会学研究室（9階）で閲覧可能です。画像もふんだんに取り入れたゼミ1年間の記録も掲載されておりますので、受講希望者はぜひご覧ください。最新2019年度のゼミ論文集は、社会学会・社会情報学会の各ゼミ紹介動画・資料の中でもPDF形式でご覧になれます。

4年生には卒業論文、あるいは卒業研究論文に取り組んでいただきます。

## ■ 塚田ゼミ (塚田 修一) ■

### ○テーマ 都市・文化・メディア

本ゼミでは主に担当教員の専門である①都市空間と文化、②文化とメディア・コミュニケーションがカバーする(あるいは重なる)領域を扱います。特に、都市空間をフィールドとして、都市と人との関わりや都市政策、都市における文化現象やメディア・コミュニケーションの様相などを考察していきます。身の回りの様々な現象を真剣に面白がれる学生、またフィールドワークに積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎いたします。

なお、担当教員の専門分野については、『国道16号線スタディーズ』(青弓社)や『アイドル論の教科書』(青弓社)、『近頃なぜか岡本喜八』(みずき書林)などを読んでみてください。

### ○活動予定内容

①各自の研究テーマに関連する文献購読およびメディアテキスト(映画やテレビドラマなど)の分析実践と、②都市空間のフィールドワークの二本を柱に、①と②を往復しながら活動していきます。

そのうえで、4年生は卒業論文・卒業研究論文の執筆を、3年生はインカレ合宿での発表およびゼミ論文の執筆を進めてもらいます。学年末には、ゼミ論集を刊行します。

夏休みにはインカレ合宿を実施し、主に3年生が研究テーマについてプレゼン大会を行います。希望があれば、4年生向けに卒論・卒業論文構想を検討する合宿も行います。また、折に触れ、フィールドトリップを企画します。

### ○卒論・卒業研究論文

本ゼミでは、卒業論文・卒業研究論文とも20000字以上を原則とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。執筆に際しては、担当教員が最大限にサポートします。

# 【図書館情報学コース】

## ■ 小山ゼミ (小山 憲司) ■

テーマ：「図書館を科学する」

このゼミでは、情報社会における図書館を主な研究対象として、多様な観点、論点から図書館を「科学」することを目指します。図書館と一口に言っても、幅広いです。私の研究関心は大学図書館で、最近ではラーニングコモンズを通じた学習支援や、学術情報資源の電子化に伴う利用者の利用動向の変化などを研究しています。が、みなさんには、みなさん自身の興味関心があるはずです。

たとえばコロナ禍における図書館という事例をとってみても、図書館開館の可否、資料の貸出と感染問題、電子書籍の効果、図書館という空間のありかたなど、さまざまな論点があります。そうした論点を整理し深めていくことで、あらたな研究のシーズ（種）が見えてきます。また、ゼミメンバーとのディスカッションは、さらにあらたな視点と知見をもたらしてくれるに違いありません。このゼミをそうした活発な議論、活動の場に、みなさん自身で育ててもらえたらと思います。

活動内容・進めかた：

前期は、4年生は卒論のテーマを決定し、それに関する発表を中心とします。3年生はグループワークを通じて、研究の方法を学ぶとともに、各自、ゼミ論のテーマを検討します。2019年度に相模原市立図書館を訪問し、その図書館の風景を写真に収めることで、図書館とはなにかを検討しましたが、同様の手法を用いた研究を実践する予定です。夏休みのゼミ合宿では、各自が研究テーマについて報告し、ディスカッションします。後期は、卒論・ゼミ論の報告を中心に進めます。このほか、希望に応じて、図書館見学やイベントへの参加など、学外での活動も考えています。

卒業論文・ゼミ論文など：

卒業論文は必修ではありませんが、本ゼミを選んだ4年生にはぜひ卒論に取り組んでもらいたいと思います。また、3年生はゼミ論を執筆し、ゼミ論文集としてまとめます。いずれの場合も、研究テーマの設定や研究の進めかた、執筆方法などについて、個別に面談し、相談しながら進めていきます。

## ■ 図書館情報学コース新規ゼミ (2021年4月着任予定教員) ■

テーマ：「データと社会課題を図書館情報学でつなげる」

本ゼミでは図書館情報学の知見を学びながら、皆さんが関心のある社会課題に対してオープンデータをどう活用できるのかを模索し、そのための情報システムを提案することを目指します。図書館情報学は学術情報資源のひとつとしてデータをいかに組織化し、人々に提供していくかを探究していきました。皆さんが日頃抱いている悩みや違和感をゼミでのディスカッションを通じて社会課題として整理しつつ、図書館情報学を学ぶことで自分を取り巻く社会問題の解決にデータを活かす仕組みづくりを習得します。

活動内容・進めかた：

4年生は安形ゼミの流れを引き継いで卒業論文執筆を目指します。3年生はデータの組織化や提供、活用方法に関する演習を行います。並行して、自身がテーマとしたい社会課題についてゼミのメンバーとディスカッションを通じて形にしていきます。

卒論・ゼミ論など：

卒論は必修ではありませんが、本ゼミを選んだ4年生にはぜひ卒論に取り組んでもらいたいと思います。また、情報システムの提案とありますが、プログラミングは必須ではありません。皆さんの特性や関心に合わせてゼミに参加した成果を形にしていければと思います。もちろん、システム開発に意欲のある方も歓迎します。研究テーマの設定や研究の進めかた、執筆方法などについて、個別に面談し、相談しながら進めていきます。

## ■ 桑田ゼミ (桑田 てるみ) ■

- ・テーマ：「アクティブ・ラーニングで考える最先端の図書館」

急速に変化する社会に求められる最先端の図書館について考察したいと考えています。常に新しい情報を得るだけでなく、自分で行動し考えるアクティブな学びを行います。私は、新しい社会に対応して変化し始めた最先端の学校図書館について研究していますが、ゼミでは、皆さんの興味関心を大切に育てます。学校図書館はもちろんのこと、公共図書館、大学図書館など館種を問わず、様々な角度や論点から、最先端の図書館活動に関する考察を広げたいと考えています。

- ・ゼミの進めかた：

前期は全員がアクティブに取り組むテーマを設定します。過去には「学校図書館改造プロジェクト」を立ち上げ、実際に図書館改造などを手がけました。2021年度は、「最先端の図書館」をキーワードにしつつ、具体的には受講者と相談しながらテーマを決めます。夏休みにはゼミ合宿で交流を深め、後期には、卒論、ゼミ論の執筆を本格化させる予定です。

- ・卒論・ゼミ論など：

4年生は原則として卒業論文に取り組みます。3年生のゼミ論文は、卒業論文で取り組むテーマを決定するための研究ノートの位置づけと考えています。執筆は、個別相談をしながら進めていくことになります。

以上